事業報告　　2021年度

法 人	社会福祉法人光朔会 オリンピア	報告者	常務理事　山口　宰

基本方針

イエス・キリストによって示された愛を、入所者・利用者・入居者・園児とともに分かち合い、神の栄光をあらわすために、誰もが夢や希望に満ちあふれ、「その人らしく」光輝いて暮らすことができる社会を実現する。

運営方針

1. 総合的な福祉活動の展開　2. 新しい介護への転換　3. 福祉の啓発活動の展開　4. 地域、他団体との協力
5. キリスト教主義の福祉活動の展開　6. リーダーシップの確保と向上　7. 海外との交流　8. 健全な財政運営

総括

26年目を迎えた2021年度は、社会福祉法人光朔会オリンピアにとって大きな試練の1年となった。
一昨年より感染を拡大させてきた新型コロナウイルスは、オリンピア各施設にも多大なる影響を与えてきた。
感染防止のため、利用者・スタッフの毎日の検温、体調チェック、手指消毒、マスク着用、換気等に取り組むとともに、外部からの立ち入りの禁止、面会の制限、外出・行事の制限など、利用者・ご家族・スタッフに対して、不便を強いることとなった。しかしながら、このような事態においても、いち早くオンラインでの会議の実施や、リモート面会の導入、オンラインで施設間を繋いでの行事の開催など、「今だからこそできること」へのチャレンジを各施設が積極的に行っていることは評価できるであろう。また、ピンチをチャンスに変えるため、施設の枠を超えた人材育成や、大学・研究機関との共同研究、企業との製品開発・実証実験などにも注力している。
感染拡大が落ち着きを見せてきたいまこそ、オリンピアの目指す「すべての人がその人らしく希望を持って輝くことができる」ノーマライゼーション社会の実現に近づけるよう、力を合わせて努力を続けていきたい。

運営評価

1. 総合的な福祉活動の展開 [多機能]：本年度上半期、高齢者事業・保育事業・社会事業の各部門の働きを一層充実させることができた。これにより「小規模・多機能・地域密着」の総合的な福祉活動をさらに前進させた。
2. 新しい介護への転換 [小規模]：ユニットケア、グループホームケアを徹底し、入居者・利用者おひとりおひとりがこれまで通り誇りを持った暮らしを安心して続けていただくことを可能にするケアの提供を行うことができた。
3. 福祉の啓発活動の展開 [地域密着]：オリンピア福祉塾講座、認知症高齢者や発達障害への理解を深めるための講演会、Salon de l'Olympiaなどを開催することにより、地域福祉の啓発に貢献した。
4. 地域、他団体との協力 [ネットワーク構築・国際交流]：大阪大学大学院・YMCA・RC・行政・医師会社会福祉協議会・各種民間企業などとの協力関係を強化し、よりよい福祉活動につなげることができた。
5. キリスト教主義の福祉活動の展開 [キリスト教社会福祉]：各部門における毎朝の礼拝、職員礼拝の充実を図るとともに、クリスマス・イースター・ペンテコステなどのキリスト教行事を積極的に実施し、キリスト教の理解を深めた。
6. リーダーシップの確保と向上 [資質の向上]：内部研修の実施および外部研修の受講より、職員・ボランティア資質の向上に努めた。また、実習生を積極的に受け入れることにより、社会的貢献を果たすことができた。
7. 海外との交流 [国際活動]：コロナ禍においても、学会発表などの海外への発信、国際セミナーなどによる情報収集など、オンラインによる国際交流を通じ、世界の福祉の情勢を分析する機会を持つことができた。
8. 健全な財政運営 [健全財政]：収入の増加、支出の見直しを実施し、健全な財政運営に努めた。

事業報告　　2021年度

施設	特別養護老人ホームオリンピア	報告者	施設長 西川　晃
事業目標	1. .オリンピアの理念を活かしたサービス提供 2. 財政基盤の確立 3. 人材確保及び育成 4. 地域ニーズに応えられる施設を目指す		

総括

今年度もコロナ禍における状況下で、今までに経験したことのない運営の難しさを痛感した一年であった。3回にわたるワクチン接種や随時のPCR検査を実施して慎重に進めてきたが、年度末に感染者が数名、施設・在宅のどちらの部門からも出て、ご迷惑とご心配をお掛けした。無事、収束出来たが今後も同様のことが起きない保証もなく、引き続き、感染対策を徹底する。介護収入は、緊急事態宣言やまん延防止条例の発令があると、自宅待機や利用控えもあり、また、施設内で罹患者が出た場合は新規受け入れの中止もあり、厳しい結果になっている。そのような中、リモートでの交流会、ソーシャルディスタンスを確保した余暇活動や屋上での園芸活動等新たな活動に繋げている。法人に携わるすべての人の希望と光となる活動になるよう、前向きなチャレンジを取り組んでいきたい。

事業評価

1. オリンピアの理念を活かしたサービスの提供：利用者の「その人らしい生活」を大切にして「有する能力」に応じた生活を送ることが出来るように支援を提供した。Withコロナで出来ないことを探すのではなく、今何が出来るのかということに着目してのチャレンジを実施した。5年ぶりにデイサービスの新規登録者数が利用終了者数を上回る事が出来、漸く明るい兆しが見えつつある。

2. 財政基盤の確立：緊急事態宣言の発令とまん延防止条例により、自宅待機や利用控えと、施設内でのコロナ罹患者発生により、新規受け入れ中止の影響が大きい。稼働率が98%以上の早急に戻していく必要が有る。

3. 人材確保及び育成 ：SNSや法人独自のネットワークにより人材獲得に東奔西走した。高齢者の再雇用やEPA特定技能生の受け入れ、高卒者採用と様々な手段を実践し続けることにより、一歩ずつ前進し始めている。

4. 地域ニーズに応えられる施設を目指す ：他機関との連携、法人内の横の繋がりを利用した緊急ショートの受入や虐待事例への専門職派遣や受入を実施した。地域事業はコロナ禍の影響で中止が相次いでおり難しかった。

研修	[内部]各委員会の研修・・・虐待防止・身体拘束廃止・感染対策・事故防止 [外部]感染症対策研修会、看取り栄養研修、防災(備蓄食)研修、介護支援専門員従事者研修、栄養士会研修、介護士会研修、相談員会研修、LD理解のための基礎と実践講座・・・リモートでの研修が大半であった。
見学・実習 ボランティア	日本メディカル福祉専門学校(2)、総合衛生学院(4)、松陰・武庫川女子大学(2)、龍谷高校でのキャラバンメイト(120)、裁縫ボランティア(1)、絵手紙ボランティア(2)、ポートワイズメンズクラブ(15)(リモートでのクリスマス礼拝の実施)、福島の高校生とのインターアクトクラブ交流事業(30) トライやるウィーク(中止)、ワークキャンプ(中止)
行事	誕生日会・特養デイサービス　映像鑑賞での花見・音楽療法教室・母の日クッキング・父の日プレゼント調理レクに切り替えた夏祭り・リモートでの保育園児との交流会(オリンピア北保育園)・ヨガ教室・絵手紙教室・特養　デイサービス　クリスマス会・お鍋の会・お正月・あんしんすこやかセンター地域ケア会議 中止・延期・・・認知症cafe・一人暮らし高齢者対象給食会・ふれあい喫茶・地域見守り連絡会　他
取得資格	介護福祉士(3)

社会福祉法人光朔会

事業報告　　2021年度

施設	オリンピア	部門	特別養護老人ホーム	報告者	谷口 裕亮
事業目標	1. オリンピアの理念を活かしたサービス提供 2. 財政基盤の確立 3. 健全な施設運営 4. 専門性の高い人材確保と人材育成				

事業評価

1. オリンピアの理念を活かしたサービス提供：コロナ禍での面会など制限された施設での生活の中で、少しでも豊かで楽しみのある時間を過ごして頂けるよう心掛けた。また、ご利用者様が楽しみにされている季節の行事や日々のレクリエーションを行う事で豊かな施設生活を送って頂くことができました。

2. 財政基盤の確立：感染症予防対策を徹底して行い、大きな感染の拡大を防ぐ事が出来、少数の入院で済む事が出来ましたが、老衰によりご逝去される方が多く、退所者が多い年になってしまった。特養待機者を常に3名確保することで、退所者が出ても直ぐに入所でき、大きく数値を落とすことなく空きベットを埋める事ができました。新規のショートも前年より多く獲得する事ができ安定した基盤を築く事が出来た。ショートベッドを十分に有効利用し、ロングショートの待機者を5～6名獲得することが出来た。

3. 健全な施設運営：介護保険制度や老人福祉法等の制度の中で運営を行っており、利用者のニーズに答えられるようサービスプランを作成していく。

4. 専門性の高い人材育成と人材の確保：研修等を実施しスタッフのスキルアップを図った。

社会福祉法人光朔会

事業報告　　2021年度

施設	オリンピア	部門	デイサービス	報告者	金谷　佐織
事業目標	1. 財政基盤の確立に向け新規利用者の獲得をめざす 2. 質の高いサービス提供に努める 3. 人材の確保・育成				

事業評価

1. 財政基盤の確立に向け新規利用者の獲得をめざす：年間利用者数5,946人、（23.05人/日）と、目標値を達成する事は出来なかった。長引くコロナ禍の影響や蔓延防止法によって、利用自粛が5名、体験の中止等が原因で利用者数を回復することが非常に厳しかった。そのような中でも新規利用の問い合わせがあり、体験利用は継続して受け入れ、年間で延べ95名の新規利用者を獲得出来た。しかしながら、体調不良による入院や虐待のために緊急施設入所等で利用期間が短く、利用者の増減が著しく感じる時期も続いた。居宅介護支援事業所には継続的に情報発信をしており、ご新規の獲得を目指す。夕食お弁当サービスは13食/週で上乗せを目指す。

2. 質の高いサービス提供に努める：ケアマネジャーやご家族との連絡を密に取り、その人らしい暮らしを支援するという法人の理念に基づいたサービス提供を心掛けた。担当ケアマネジャーへ定期的にご利用者様の日常の様子を写真入りで情報提供する取り組みが好評で、新規利用者を積極的に紹介してくれるようにもなってきている。

3. 人材の確保・育成：15年以上勤めていたスタッフが家の事情で退職となり、スタッフ数が少なくなってしまった。求人をしているが、なかなか補充できない。人員を獲得して育成することが急務となっている。

社会福祉法人光朔会

事業報告　　2021年度

施設	オリンピア	部門	居宅介護支援事業所	報告者	渡邉 千恵
事業目標	1. 財政基盤の確立 2. 質の高い居宅介護支援 3. 地域、他事業所との連携 4. 介護支援専門員の資質向上 5. 認定調査員の資質向上				

事業評価

1. 財政基盤の確立:要介護者プラン件数年間946件、要支援者プラン件数年間171件となった。要介護者プラン件数は例年より少なかったが、要支援者プラン件数が増えた。

2. 質の高い居宅介護支援:月1回は自宅訪問し、モニタリングを実施。コロナ禍でサービス調整が難しかったが、アセスメントを何度も行い、事業所との連携を図る事で介護保険の枠にとらわれず対応できた。

3. 地域、他事業所との連携:圏域あんしんすこやかセンターからの依頼など事業所と連携を図る事ができた。医療機関との連携がコロナ感染症対策で、面談ができず、対応が難しかったが電話などで対応する事ができた。

4. 介護支援専門員の資質向上:コロナ禍で開催される研修が少なかったが、リモートでの実施もあり、積極的に参加できた。リモートでの研修実施場所など課題は多いが積極的に研修に参加できた事は良かった。

5. 認定調査員の資質向上:年間495件の認定調査を行った。電話での問合せ調査が61件。感染症対策を行った上で、できるだけ訪問での調査を行った。また、神戸市委託先検査を受けた事で認定調査時の注意点や調査票の記載の仕方など個別に指導して貰う事ができ、学ぶ事が多かった。

社会福祉法人光朔会

事業報告　　2021年度

施設	オリンピア	部門	地域包括	報告者	太田 直樹
事業目標	1. 高齢者やその家族から信頼され安心して相談ができる窓口として、さらに認知・評価される。 2. 高齢者と地域(社会資源)をつなげ、安心して住むことのできる地域づくりを支援する。				

事業評価

1. 毎月、圏域内の各腫事業所130～140カ所を訪問および資料配付を継続した。新型コロナ感染予防や閉じこもり予防・フレイル予防等の啓発と同時に、あんしんすこやかセンターの役割やその他防犯・権利擁護等の情報発信を行った。新型コロナウイルス禍でも地域活動を行っている場所には積極的に参加して地域支援をおこなった。

2.各地区民生委員やボランティアおよび圏域内居宅介護支援事業所と協力して、高齢者見守り活動や地域ケア会議を開催し、高齢者ケアや見守りの地域ネットワーク構築と地域課題の解決方法を検討した。

3.圏域内のふれあいのまちづくり協議会と連携して、雲中公園等で新たなつどいの場の開催支援をした。

4.圏域内の介護事業所や大学等と協力して、高齢者向けの体操プログラムの実施支援を継続した。新型コロナウィルス禍で、休止することがあったが、実施の際は感染予防対策として人数制限や消毒を徹底した。

5.「神戸モデル」等の神戸市の認知症施策に関して、センター職員が介護相談時に案内し、必要に応じて「神戸市認知症初期集中支援チーム(オレンジチーム)」と連携し受診や介護認定申請につなげた。

社会福祉法人光朔会

事業報告　　2021年度

施設	オリンピア呉	部門	居宅介護支援事業所	報告者	桒田　実
事業目標	1. 事業の経営安定 2. 地域作りへの貢献				

事業評価

1. 現在要介護者16名、要支援者43名の合計59名（38名換算）の利用者を担当している。引き続き、要介護利用者の獲得に苦労をしている状況にある。現在の要介護利用者の多くは既存の要支援の利用者の区分変更等によるものである。また、利用者の家族が新たに要介護・要支援になり支援を開始するケースも増えている。昨年同様コロナ禍で行動制限等も多く、活動に苦心し孤独を深める事も多い1年となった。今後は要介護者の割合を増やし、少しでも収益の改善が図れるよう邁進していきたい。

2. コロナ禍で様々な会議や研修が軒並みオンライン開催になる中、可能な限り参加し発言をする事で、事業所のアピールに努めている。事業再開から3年が経過し、行政や医療機関・各種事業所等との関係性も深められ、地域の事業所としての存在感の構築は出来てきていると感じる。コロナ禍で地域活動等当初の予定通りには行かない部分も多かったが、徐々に地域の方にも存在が浸透してきていると感じている。今後はコロナの収集状況を見ながら、また感染予防愛策を十分に取りながら、地域のケアマネジャーとして存在感を増していけるよう、しっかりと取り組んでいきたい。

社会福祉法人光朔会

事業報告　　2021年度

施設	グループホームオリンピア灘	報告者	管理者 長谷 順二
事業目標	1. 利用者の生活の質の向上 2. 認知症ケアの拠点としての地域交流 3. 職員の資質向上 4. 財政基盤の確立		

総括

2021年度は、前年度よりコロナ禍が続く中、コロナ禍であっても成長を模索する1年であった。コロナウイルス感染防止においては、法人や行政の指導を下にご入居者のみなさんに安全を提供することができた。面会の制限や、外出の自粛といった普通の生活上行えることが行えない中、ご入居者とこれまで以上にコミュニケーションをとり、お一人おひとりのケアを見つめなおすことができた。研修や普段のカンファレンスから、職員ごとの成長を促し、法人理念に基づいたケアの提供を前進させる1年であった。一時期、入居者の獲得に苦戦した時期があったが、コロナ禍での見学、対応を見直し、満室で入居待機者も確保した良い状態で次年度に繋げることができている。次年度は、高い利用率が見込めており、発展が期待できる。

事業評価

1. 利用者の生活の質の向上:「生活の主人公は利用者ご本人」であり、1日1日をその人らしく充実した生活を過ごしていただくためパーソンセンタードケアを基盤としてケアプランを作成した。コロナ禍に適応した、新しい形でのご入居者の生活を構築する1年とすることができた。

2. 認知症ケアの拠点としての地域交流:情報を地域に発信していくことで、近隣住民のパート雇用へと繋げることができた。認知症ケアの拠点として存在するために、地域包括支援センターや居宅介護事業所を通しての広報活動を継続し、今後は近隣の病院やクリニックにも情報発信を行いたい。

3. 職員の資質向上:理事長研修を受講し、各職員が法人、法人理念への理解を含めた。一つの部門として各スタッフが同じ方向を向く羅針盤として研修を受講することができた。

4. 財政基盤の確立:ご入居者の入退居が続く時期があったが、課題を抽出し、改善策を行うことで盛り返すところまで年内に行うことができた。次年度は、更に高い収益が見込めており飛躍の1年としていく。

研修	[内部]理事長研修・新入職員OJT・認知症ケア・非常災害・コンプライアンス・接遇・フレイル 感染症・介護予防・高齢者虐待防止・身体拘束防止・パーソンセンタードケア・ハラスメント 介護職員初任者研修 [外部]コンプライアンス研修(神戸市主催)・LD理解のための基礎と実践講座
見学・実習 ボランティア	[見学]居宅介護支援事業所、入居希望者の見学受け入れ・民生委員 デイサービス体験利用の実施・オリンピア岩屋による畑作業 [実習](グリーフケア研修・トライアルウィーク・ワークキャンプ)・・・感染対策のため受入中止 [ボランティア](オリンピア北保育園、オリンピア岩屋)・・・リモート
行事	誕生日会・消防設備点検・オリンピア北保育園リモート交流会・屋上BBQ・焼き芋パーティー 雛祭り・イースター・ハロウィン・クリスマス(礼拝・パーティー)・節分・ライト・イット・アップブルー ドライブ・母の日・父の日
取得資格	介護職員初任者研修(1)、介護福祉士(2)

社会福祉法人光朔会

事業報告　　2021年度

施設	オリンピア灘	部門	グループホーム	報告者	長谷 順二
事業目標	1. 入居者が主人公となる生活の場の構築 2. 職員のスキルアップと育成 3. 地域交流の活性化・認知症ケアに関する啓発活動 4. 財政基盤の確立				

事業評価

1. 入居者が主人公となる生活の場の構築:コロナ禍でできないことはあるが、お一人おひとりのご入居者とこれまで以上に関わり、ケアの見直しを行うことができた。ご入居者の誰もが、その人らしく生活できるように話し合い、お手伝いをさせていただく1年となった。

2. 職員のスキルアップと育成:理事長研修を受講することによって、法人のトップから法人、法人理念について各スタッフが学ぶことができた。スタッフ全員が同じ方向を見て、共通の目標を掲げるために必要なことであった。それぞれの課題を自省し、年度末の自己評価へと繋がっている。

3. 地域交流の活性化・認知症ケアに関する啓発活動:地域との繋がり方を考える年であった。コロナ禍で外出が減ったことによるマイナスはあるが、近隣住民、民生委員と情報を共有することができた。2年ほどできていない認知症ケアの講演会を開催する方法を検討していきたい。

4. 財政基盤の確立:入退居が重なるなどの難しい時期を乗り越え、収入を確保できる体制を整えた。修繕などの整備にも当てれるように、継続して収入を最大限確保していく。

社会福祉法人光朔会

事業報告　　2021年度

施設	オリンピア灘	部門	デイサービス	報告者	長谷 順二
事業目標	1. サービスの質の向上 2. 財政基盤の確立				

事業評価

1. サービスの質の向上:認知症対応型デイサービスとして、またグループホームとの共用型というサービスをしっかりと広報していく1年となった。中でもご利用者からグループホームの入居へと繋がる事例が2件あったが、入居へ向けてのご利用方法を検討することができた。認知症ケアとして利用時の対応を検討していき、利用時のご様子をご家族に詳細に伝えていくことで、在宅時の悩み事にも対応していけるように努めた。利用の出入りが多い年であったので、短い利用期間でグループホームへのご入居となった方など、ご入居者後のご様子をケアマネジャーに報告していくことを今後の課題としていきたい。入居後も、外へ開かれた生活空間となるようにデイサービスとグループホームが一体となっていく。

2. 財政基盤の確立:利用終了となる方もいるが、ご利用者の中心となっている方々は長いご利用をいただけている。新規利用のご依頼もいただきながら、1日定員3名を埋めていくことに邁進した。デイご利用者の中でグループホーム入居待機者を作っていけるように務め、実際に2件がデイをきっかけにご入居いただけた。まだ形になってきたところであるので、循環していく流れを確立させていきたい。

社会福祉法人光朔会

事業報告　　2021年度

施設	高齢者総合福祉施設オリンピア兵庫	報告者	館長　山口　宰
事業目標	1.「小規模多機能ケア」の確立　2. 広報活動の強化　3. 財政基盤の確立 4. 新規プロジェクトへの挑戦　5. 人材の育成		

総括

2021年度、オリンピア兵庫は前年度に引き続き、大きな試練を与えられた年となった。新型コロナウイルスの感染拡大は、オリンピア兵庫をどのような思いで開設したのか、その存在意義をもう一度問い直す機会となった。しかしながら、このような状況であっても、Zoomをはじめとしたオンラインツールを活用した朝礼や面会、各種会議の実施、講演会・セミナー等での発信・参加、Instagram・Facebook等のSNSを利用した情報発信等、「いまだからこそできること」にチャレンジを続けられたことは高く評価できる。また、大阪大学大学院との共同研究により、介護とテクノロジーの今後の可能性を見いだすこともできた。自然災害・感染症対策BCPの策定等、コロナ禍の2年間での学びを生かし、新たな一歩を踏み出せるよう、スタッフの力を結集し、努力していきたい。

事業評価

1.「小規模多機能ケア」の確立：GH・SS・DS・HHの4部門が力を合わせることにより「通えて泊まれて家にも来てくれて、いざとなったら住むことができる」場として、その人らしい住み慣れた地域での生活を支えることに寄与した。

2.広報活動の強化：ホームページ、Facebook等を用いた従来の広報活動に加え、スタッフが自主的に連携し、各種営業活動を展開するなど、ひとりひとりの持つ発信力を強化することができた。

3.財政基盤の確立：新型コロナウイルス感染症による収入減に加え建物の大規模な修繕等の支出増により、各部門とも苦戦を強いられる一年となった。収入の改善および支出の見直しを実施し、次年度への備えをした。

4.新規プロジェクトへの挑戦：大阪大学大学院との介護とテクノロジーに関する共同研究、各種民間企業への新商品開発協力など、外部団体との協働により、新たなチャレンジに向けてスタートを切ることができた。

5.人材の育成：従来の人材育成の取り組みに加え、スタッフによる自主的な勉強会の開催や、リーダークラスのスタッフの内部研修講師への登用など、新たな人材育成のステージに進むことができた年度であった。

研修	[内部]新入職員OJT・感染症・介護予防・高齢者虐待防止・身体拘束適正化研修（オンライン） 理事長研修（パーソンセンタードケア）[外部] 神戸市老人福祉施設連盟栄養士会（オンライン） ユニットリーダー研修（オンライン）・ハートンネット地域会議（オンライン） 認知症介護実践者研修・介護現場におけるリーダー育成セミナー
見学・実習 ボランティア	[見学]薫化舎(2)[実習]神戸医療福祉専門学校(3)・神戸リハビリテーション専門学校(8) 大阪大学人間科学部(1)・兵庫県立総合衛生学院介護福祉士学科(2) 障害者職場体験(1)・トライやるウィーク(須佐野中学校3) インターン(神戸医療福祉大学 1)・ミカエル兵庫幼稚園(40)
行事	お誕生日会・運営推進会議・こどもの日・母の日・父の日・敬老の日・ハロウィンパーティー クリスマス会・初詣・豆まき・バレンタイン・梅見（須磨綱敷天満宮）・ひな祭り・消防避難訓練 発達障害理解のための基礎と実践講座（オンライン）
取得資格	介護職員初任者研修(1)

社会福祉法人光朔会

事業報告　　2021年度

施設	オリンピア兵庫	部門	グループホーム	報告者	西塚 裕真
事業目標	1. ケア理念の遵守　2. 財政基盤を確立し地域に密着した運営を行う 3. スタッフの資質向上をめざす				

事業評価

1. ケア理念の遵守：2020年から続くコロナウィルスの影響を受け、ご利用者の生活に制限が多い中、オリンピアの理念、ビジョンをケアの基礎としパーソンセンタードケアを実践できた。また、2名の方の看取りを行い、ご入居者とご家族に寄り添ったケアの実践ができた。

2. 財政基盤を確立し地域に密着した運営を行う：コロナ禍であっても運営推進会議を開催し、地域とのつながりや関係継続を図った。入院により年間稼働率98%には届かなかったが、事前に待機者を確保することで、空き室を最小限に抑え、スムーズに新規入所者をお迎えすることができた。コロナ禍もカフェの運営を継続し、地域の憩いの場としての役割を担うことが出来た。

3. スタッフの資質向上：スタッフのレベルに合った内部、外部の研修を受講する機会が増え、スタッフのモチベーションの向上に繋げることができた。また、派遣や紹介会社を利用することなく採用ができている。離職も減っているので、継続してひとりひとりのスタッフにあった研修や育成を行い、ステップアップに尽力していく。

社会福祉法人光朔会

事業報告　　2021年度

施設	オリンピア兵庫	部門	ショートステイ	報告者	仲原 広樹
事業目標	1. ショートステイとしてコロナ禍における役割を担う 2. 法人内の中継地点としての機能を果たす 3. 人材確保と育成を図る				

事業評価

1. ショートステイとしてコロナ禍における役割を担う：コロナ禍で制限された生活の中で様々な事情を抱えた近隣地域の高齢者の方々が少しでも安心して過ごすことが出来るようにショートステイとしての役割を担うことに努めた。オリンピア兵庫内でのコロナ発生があった中でも、各部門や嘱託医、その他専門職との連携によって陽性者を含めご利用者の対応を行う事が出来た。引き続き、感染予防対策を徹底し対応を行っていく。

2. 法人内の中継地点としての機能を果たす：法人内の入所施設や他施設への入所待機者の方々に対して入所までの期間を安心して待つことが出来る場所とし、入所等が決まればスムーズに事が運ぶ中継地点としての機能を果たせるように連携を図れた。近隣の居宅介護支援事業所から施設入所までの利用の相談を定期的に頂いているので、地域で信頼される施設としての機能を果たしていく。

3. 人材確保と育成を図る：人材確保についてはご利用者の満足度を高めていく為にも募集を行い体制強化に努めた。人材育成については新入職員への指導とともにその他職員に対しても適宜面談を実施し、問題に対して対応している。職員一人ひとりの生産性を高めていく為に、ケアリーダーやユニットリーダーと連携し業務改善を図る。

社会福祉法人光朔会

事業報告　　2021年度

施設	オリンピア兵庫	部門	デイサービス	報告者	清田 忠弘
事業目標	1. 財政基盤の確立 2. 地域との密着 3. 人材育成の強化 4. 新たな保険外事業への挑戦				

事業評価

1. 財政基盤の確立：前年度末に発生したコロナクラスターを引きずる形でスタートし、年度を通して例年並みの新規を受け入れることが出来たが長期入院、終了等による減算が例年以上に発生し予算達成に至らなかった。新規照会、曜日追加などのプラス要因は例年通りであり、獲得能力が低下しているものではないと判断している。

2. 地域との密着：地域密着型として運営推進会議の開催がコロナ感染症により8月度に行った一回になってしまった。また、地域と結ぶ様々な行事も実施されなかった。

3. 人材育成の強化：年度当初に新規スタッフが入り、スキルアップをOJTを通して行ってきたが年度末に病気のため長期の休職になってしまい、次世代を育成することは次年度以降へ繰り越さざるを得なくなった。外部研修は一部リモートなどを利用したが進んでいない。

4. 新たな保険外事業への挑戦：コロナ感染症が拡大するなかではあったが、初任者研修については実施することが出来、講師側のスキルアップに貢献出来たと考えており、今後も継続して行きたい。

社会福祉法人光朔会

事業報告　　2021年度

施設	オリンピア兵庫	部門	ホームヘルプ	報告者	中村 文香
事業目標	1. 地域で暮らし続けるためのケアの実践 2. 他部門との連携強化 3. ヘルパーの養成 4. 保険外サービスの具体化				

事業評価

1. 地域で暮らし続けるためのケアの実践：身体的、精神的に重度と言われる高齢者の施設入所の動きが加速していると感じる。近年は、少しの手助けがあれば一人で在宅生活を続けられる方の依頼が増えており、在宅サービスはより「自立支援」の側面が強く求められている。

2. 他部門との連携強化：デイサービス、ショートステイとヘルパーを併用される方は年々増えている。ヘルパーがオリンピアなので、デイサービスやショートステイもオリンピアで、またはその逆のパターンで依頼を伺うことがある。それぞれに連携してサービスの質の向上を図りたい。

3. ヘルパーの養成：今年度も「チームケア」を心がけ、ヘルパーが一人で抱え込むのではなく、お互いに情報共有や助言、必要のうじて同行するなどして「オリンピアのケア」を実践できるように努めた。それぞれのスキルアップを体系的に行っていくのが課題である。

4. 保険外サービスの具体化：通院時の院内付添い、介護保険の範囲を超える掃除（大掃除など）、既存の保険外サービスは継続できたが、それ以上の部分を実施することは難しかった。

社会福祉法人光朔会

事業報告　　2021年度

施設	オリンピア兵庫	部門	居宅介護支援事業所	報告者	園田　明
事業目標	1. 財政基盤の確立 2. 地域、他事業所との連携強化 3. ケアマネジャーとしての資質向上 4. 新規利用者の獲得 5. 利用者、家族の尊重				

事業評価

1. 財政基盤の確立:2021年度の収支差額ではマイナスとなったが、法人の運営しているサービスに利用者を紹介するなど行い、財政基盤の確立に貢献する事ができた。

2. 地域、他事業所との連携強化:圏域である浜山あんしんすこやかセンターをはじめ、市内のあんしんすこやかセンター、他事業所のケアマネジャーとの勉強会に参加し、連携強化に努めた。

3. ケアマネジャーとしての資質向上:コロナの影響により参加型の研修会、勉強会が中止となる事が多い中、リモートでの勉強会や事業所内で研修を実施するなど、新たな知識を獲得するように努めた。

4. 新規利用者の獲得:新規依頼があった場合は断る事無く、担当となるようにしました。コロナの影響もありプラン件数が減少した時期もあったが、年間を通して件数を徐々に回復させる事ができた。

5. 利用者、家族の尊重:毎月の訪問や電話でのモニタリングの際に利用者、家族の希望、要望を確認した上で、利用者が出来る限り自立した生活を送れるように相談、調整をさせて頂いた。モニタリング実施時には、利用者、家族のニーズを引き出せるように傾聴を常に意識して実施した。

社会福祉法人光朔会

事業報告　　2021年度

施設	オリンピア都こども園	報告者	園長 三好 美佐子
事業目標	1. オリンピアの理念・都こども園の理念、理解の徹底 2. 安心安全な環境の充実 3. 地域子育て支援の充実 4. 教育・保育専門職としての資質向上 5. 関係団体との連携 6. 人材の定着と確保 7. 次世代育成		

総括

2021年度はコロナ禍における保育も2年目となり、より安心安全な環境作りを意識し、子どもの健全な成長を支援することができた。感染状況、コロナ対策取り扱いの度重なる変更に柔軟に対応し、その時々にできる保育を提供することができた。感染症対応にともない、子どもの活動・行事など制限される場面も多々あったが、保護者とも連絡を密に取り、子どもの成長を伝えられる方法を模索していった。結果としてオンライン配信など新しい方法で子どもの様子を伝えることができた。一時保育や地域親子に向けての子育てサロンなどは、感染症の状況により実施が難しく、実施内容、参加人数など計画を大きく下回った。また、養成校からの実習生の減少、トライやるウィークの中止など次世代育成に大きな影響が出ていると感じた。

事業評価

1.2.3. コロナ禍にあっても安心安全な教育・保育を提供できるのは、オリンピアの理念を理解し、ていねいに実践しているからである。このことを保護者、地域子育て家庭に発信し、理解・評価を得ることができた。一年間の子どもの成長を感じていただく2月の生活発表会では、YouTubeによるオンライン配信（限定）という新しい配信方法を取ることができ好評だった。オミクロン株に移行してから子どもの感染が増加し、クラス単位での登園自粛などがあったが、混乱も無く、保護者の方にご理解ご協力をいただけたことは幸いだった。

4. 度重なるコロナの取り扱い変更に即対応し、保育室やランチルームの環境、玩具・遊具の毎日の消毒、毎日の遊びの工夫を年齢に応じて職員が主体的に考え、実施することができた。

5. オンライン形式の研修会、研究大会に参加、年齢別の園内研修を充実の図り、学び機会を作った。

6. 年3回の職員面談をとおして、個々の課題の振り返り、仕事への満足度をともに意識することを大切にした。

7. 実習は養成校と受け入れ方法を確認しながらできる範囲でおこなった。

研修	[内部]感染症対策マニュアルの徹底理解・実践、新型コロナウイルス感染症の正しい理解、事例研究 [外部]キャリアアップ研修(マネジメント・乳児保育・幼児保育・保健衛生安全対策・保護者支援子育て支援)・絵本講座(オンライン)・年齢別園内研修(手作りおもちゃ・記録の書き方・ドキュメンテーションの作り方など)
見学・実習 ボランティア	神戸松蔭女子学院大学管理栄養学科(2)・神戸女子短期大学栄養学部学生(2) 神戸松蔭女子学院大学子ども発達学科(1)・頌栄短期大学(2)・神戸教育短期大学(3) 神戸元町こども専門学校(1) 入園希望・一時保育利用希望等の見学者は感染症対策をとりながら1日5組でおこなった
行事	進級式・入園式・礼拝（クラス礼拝、イースター、ペンテコステ、花の日、収穫感謝、クリスマス） 健康診断（内科・歯科・耳鼻科・眼科・尿検査）、水あそび、運動あそびの会、年長児お楽しみ会 夏まつり・秋のおまつり・豆まき節分・生活発表会・卒園式・園外保育など すべての行事は感染症対策をとりながらクラス単位・少人数でおこなった。
取得資格	

事業報告　　2021年度

施設	オリンピア神戸北保育園	報告者	園長 村上 徳光
事業目標	1. 健全財政の安定　2. 育児担当制保育の充実　3. 保育の質を高めるために職員の専門性の向上 4. 職員の業務効率化		

総括

2021年度は当初より、コロナ感染症の対応で特別保育及び園外保育、各行事等々が例年の形式ではなく感染防止対策を講じて実施した。敬老の日の集いは、昨年度と同様リモートにより中央デイ・灘と交流を行った。また、クリスマス会は河村博之司祭のクリスマスメッセージ、年長クラスの生誕劇を灘に中継した。保育については子どもが安心・安定した生活が送れるようにする「養護」とともに、人格形成の基礎を培う「教育」を一体的に行うことに取り組み、キリスト教保育を基盤として、子どもの情緒を安定させ、子どもの主体を大切にする保育を進めてきた。子ども自身が興味を持ち、自立しようする気持ちを受け止め、環境を構成し援助するという役割が果たせたと考えている。また、神戸市助成の大規模修繕である「屋上防水工事」も無事に終了した。

事業評価

1. 健全財政の安定化：補正予算収入18,244万円、支出16,402万円、収支差1,841万円で、最終実算収入18,286万円、支出16,437万円、収支差1,848万円となり、ほぼ補正予算通りに決算できた。

2. 育児担当制保育の充実：園内・園外の研修等を実施し、その研修で学んだことを、他の保育士にも講義する機会を設け充実を図った。

3. 保育の質を高めるために職員の専門性の向上：経験年数別の会議を実施し、保育の質的向上を図り、更にリーダー的保育士が研修や相談の企画運営を担った。

4. 職員の業務効率化：職員と非常勤とのコミュニケーションを密に取り、保育士自ら動き、無駄のない保育体制への確立を目指した。

研修	育児担当制保育の研修を、年度当初の4月に講師を招いて園内研修として実施した。 園外研修にも積極的に参加した。（キャリアアップ研修も含め）
見学・実習 ボランティア	ワークキャンプ（コロナウィルス蔓延防止措置のため中止） 聖和短期大学の実習3名受け入れ（新卒職員1名の採用に繋がった）
行事	入園式・進級式・お誕生会・イースター礼拝・家族の日礼拝・花の日礼拝・お泊りキャンプ 乳幼児保育参観・敬老の日の集い（リモートにて中央デイ、灘）・運動会・収獲感謝祭（ハロウィン） クリスマス会（灘リモート中継及びYouTube限定配信）・お餅つき・大きくなったよの集い（YouTube限定配信）・お別れ遠足・お別れパーティー・卒園式
取得資格	

事業報告　　2021年度

施設	高齢者総合福祉施設オリンピア神戸西	報告者	施設長 櫻井 敬介
事業目標	1. 総合的な福祉活動の展開　2. 財政基盤の確立　3. 小規模多機能ケアの確立 4. 人材確保と育成（研修）		

総括

オリンピア神戸西も多くの方の祈りと支えにより、12年目を終えることが出来た。今年度は利用者・入居者の方の獲得、スタッフの採用に苦戦した年であった。今年度の経験を糧にし、成長できるよう精進していく。長引く新型コロナウイルス感染症の影響で生活様式は様変わりしたが、そのようななかでもスタッフは感染対策を徹底しながら利用者・入居者の皆様に生活を楽しんでいただこうと、今できることに一生懸命取り組んでいたことは評価できると思われる。今年度にはいり地域との交流は再開されつつある。新しい形の地域との関りを見出し、地域共存を再構築する。そして、これからも利用者・入居者の皆様の健康と生活を守りながら、オリンピアの理念に則ったサービスを提供できるよう、スタッフ一同協力して様々なことに挑戦していく。

事業評価

1. 総合的な福祉活動の展開：特別養護老人ホームの入所部門、小規模多機能ホームの通所部門、居宅介護支援事業所の在宅部門の三部門が連携、協力を図り、小規模多機能利用から特養入居、居宅の紹介から小規模多機能利用といった馴染みの関係のなかでの継続した介護サービスを提供することができた。

2. 財政基盤の構築：今年度は利用者の獲得に苦戦した年であった。今後は利用者獲得方法を見直すことで、利用率・稼働率の向上、ひいては収入増につなげる。また、支出を見直し、収支の安定を図る。

3. 小規模多機能ケアの確立：利用者おひとりおひとりに寄り添い、なじみの環境、住み慣れた地域の中での継続した生活を支援することができた。

4. 人材確保と育成（研修）：上半期はスタッフの離職も少なく安定していたが、下半期に離職が続いてしまったことが反省点である。今後は定着率の向上、計画的な採用を実践していく。研修に関しては計画的に内部研修を行い、専門性の向上、知識の共有を図ることができた。

研修	[内部]新入職員研修・新入職員OJT・リーダー研修・高齢者虐待防止・身体拘束撤廃研修 感染症予防研修・事故防止対策研修 [外部]介護支援専門員従事者研修・施設長会研修・栄養士会研修・介護士会研修・相談員会研修・ユニットリーダー研修・生産性向上支援訓練介護現場におけるリーダー育成セミナー
見学・実習 ボランティア	・兵庫県立神戸総合衛生学院(3)・傾聴ボランティアグループテンフラワー(2) ・裁縫ボランティア(1)
行事	・誕生日会・運営推進会議・音楽療法教室・健康野菜市・屋上でランチピクニック・母の日クッキング ・父の日プレゼント敬老の日食事会・クリスマス会・新春食事会・桃の節句お茶会・お話たべちゃえ ・給食会・上池地区クリーン作戦
取得資格	介護福祉士(1)

社会福祉法人光朔会

事業報告　　2021年度

施設	オリンピア神戸西	部門	小規模多機能	報告者	平山　陽三
事業目標	1. その人らしい暮らしの実現 2. 財政基盤の確立 3. スタッフの確保と資質向上 4. 地域の拠点作り				

事業評価

1. その人らしい暮らしの実現：利用者おひとりおひとりに対し、馴染みの環境・人間関係の中での在宅生活の継続を支援する事に力を入れてきた。今年度も訪問に力を入れ利用者・家族の希望される生活の実現を目指した。常にギリギリのスタッフ体制ではあったが、複数回訪問や遠方への訪問をしたり、時々の状態に合わせて利用形態を変更したり、ワクチン会場に行けない方の為にワクチン接種を行ったり、散歩に出掛けたり、受診付き添い、買い物付き添い等、コロナ禍においてもその人らしい暮らしの実現の支援に積極的に取り組むことができた。

2. 財政基盤の確立：登録24名からのスタートであったが、コロナ禍と入院や施設入所が重なり、最終的には25名で終えた。年間収入75,392（千円）、予算に対し95.2%の達成率。次年度こそは回復を目指す。

3. スタッフの確保と資質向上：6月に大きな人事異動があり、秋頃までは安定していたが、休職や退職が相次ぎ年明けには派遣に頼ることになった。コロナ禍で研修等も中止が相次ぎ、内部研修が中心となった。

4. 地域の拠点作り:コロナ禍で、体操教室等の一般参加型プログラム、運推を中止せざるを得ず、地域との接点を持つことがあまりできず、拠点作りもできなかった。野菜市は感染対策を行い、年間を通して実施できた。

社会福祉法人光朔会

事業報告　　2021年度

施設	オリンピア神戸西	部門	特別養護老人ホーム	報告者	横山　佳史
事業目標	1. オリンピアの理念の遵守 2. 地域共生 3. 人材確保と育成（研修） 4. 健全な財政基盤の確立				

事業評価

1. オリンピアの理念の遵守:オリンピアの理念を尊守し、入居者の方おひとりおひとりがその人らしい生活を送っていただけるよう、寄り添ったケアを行うことができたと思われる。今年度も、新型コロナウィルス感染症の影響で、面会の自粛や外出行事、ご家族を招いての行事などを行うことができず、入居者の皆様やご家族の方々にご迷惑をお掛けする事になってしまった。次年度は、感染対応を行いながらコロナ禍でも楽しめる企画を考案していく。

2. 地域共生:新型コロナウィルス感染症の影響で、外出の機会が減り地域との交流を持つことが難しくなった。しかし、特養への入居、緊急ショートステイを希望されている方からの問い合わせや、申し込みを多数いただく事ができ、地域との繋がりを感じる事ができた。

3. 人材確保と育成（研修）:オンラインを使用してユニットリーダー研修等の研修を受講した。また、介護福祉士資格合格者を出す事が出来た。今後も委員会や勉強会を行うことで職員の意識向上に努めていく。

4. 健全な財政基盤の確立:入居者方々の健康管理に努めていたが、退居者が多数出てしまい、年間稼働率97.4%であった。今後は安定した収入を得れるよう、高水準の稼働率を維持できるように努力する。

社会福祉法人光朔会

事業報告　　2021年度

施設	オリンピア明石	部門	居宅介護支援事業所	報告者	富松 晃子
事業目標	1. 地域の相談窓口としての役割を担う 2. 在宅支援を他部門と連携して行う 3. 財政の安定 4. 人材育成と資質の向上。				

事業評価

1. 地域の相談窓口としての役割を担う。:コロナ渦で交流の機会がほとんどありませんでしたが、寄せられた相談は迅速に対応する事が出来ました。

2. 在宅支援を他部門と連携して行う。:圏域の地域包括支援センターをはじめ、行政・医療・福祉関係との関りを持つ事を心掛け、連携したサービス提供する事が出来ました。

3. 財政の安定。:下半期ごろから入院や利用終了になる利用者様が増加しました。(利用終了15名)新規利用者の受入れ(16名)も行って来ましたが目標達成する事が出来ませんでした。(予算額7,874,000円に対し達成率97.4%)

4. 人材育成と資質の向上。:地域支援のための研修会　計8回(明石市主催)に参加することで多くの知識や情報を得ることが出来ました。また他の研修会にも参加する事で、介護支援専門員としての資質向上が図れました。主任介護支援専門員の更新研修参加。(1名)

社会福祉法人光朔会

事業報告　　2021年度

施設	オリンピア都児童館	報告者	館長 森下 洋子
事業目標	1. 児童の健全育成　2. 子育てと家庭の支援　3. 放課後児童の健全育成（放課後児童クラブ） 4. 地域への貢献　5. 職員の資質の向上		

総括

新型コロナウィルスの影響で一般来館の利用規制が継続となったが、親子プログラムは予定通りにスタートできた。放課後児童クラブについては毎日受け入れを行った。安全に安心して過ごせるように利用者・職員の安全対策を徹底した。児童館から感染者を出すことなく過ごせたことは良かった。

コミュニティ事業についてはコロナ禍の中にあったため、2021年度も規模を縮小して実施した。

環境整備（中庭人工芝・LED交換・カーテン取替等）ができたことは利用者にとっても気持ち良いものとなった。

職員間の情報の共有、報・連・相が確実な仕事の基本であることを伝え続けた。

採用について考えさせられる年でもあった。

事業評価

1. 行事プログラムに関しては、二部制にして密を避け、安全を確保しながら実施することができた。プログラムの内容についてはできることに限定されてしまったが、次年度は更に工夫できるようにしていく。

2. 親子館事業の各プログラムを通して、母親の仲間づくり、居場所づくりに配慮し、子育ての悩みを抱え込まないように母親とのコミュニケーションを職員全員がコロナ禍にある中でより大切にできた。

3. 保護者が安心できるように換気や密にならないための対策、消毒、マスクの着用など徹底できた。子どもたちに命を守る行動・協力・寛容ということを意識づけた。更に学年に応じた判断力と自立につなげたい。

4. コロナ禍にあって、地域の方の参加や交流が積極的にできなかったことは残念だが、作品展等では作品の出展という形で参加していただくことができた。地域の方の輪投げひろばを再開できたことを活気につなげていきたい。

5. 個々が責任ある行動をとることの重要性についてそれぞれが自覚できるように伝え続けた。学生アルバイトの成長には目を見張るものがあった。全職員のチームワークで成り立つこともそれぞれが念頭におけるようにしていく。

研修	館長研修・コーナー長研修・指導員研修・放課後児童クラブ支援員研修 専門相談研修 衛生推進者養成講習（館長） 放課後児童支援員認定研修(1)
見学・実習 ボランティア	例年受け入れている「トライやるウィーク」と「ワークキャンプ」については新型コロナウィルスの影響で中止となったが、トライやるウィーク活動の一環として話し合いのもと、児童館の横断幕を作成していただいた。 すこやかクラブの託児ボランティア。
行事	・すこやかクラブ　・プレすこやか　・なかよしひろば（赤ちゃんタイム・1歳児タイム・ママのリフレッシュタイム ママのホッとタイム）　・乳幼児夏まつり　・学童お誕生日会・お楽しみ会・お別れ会等合同行事 ・交通安全教室　・月行事（工作等）・クリスマス会・新年お楽しみ会 ・コミュニティ事業（ミニ夏まつり・都作品展）　新型コロナウィルスの影響で規模を縮小して実施。
取得資格	・衛生推進者(1)・放課後児童支援員(1)

社会福祉法人光朔会

事業報告　　2021年度

施設	社会事業（障害福祉サービス）部門	報告者	センター長 細田 尚誉
事業目標	1. 障害事業部門の連携の確立 2. 人材の育成と確保 3. サービス事業の拡大と利用者様獲得 4. 地域ネットワークの構築と啓発活動		

総括

社会事業部門として10年目を迎えた2021年度は、コロナ禍における環境の変化は受託作業の減少、イベントなど販売会の中止による、提供サービスへの影響も大きく継続的な支援への難しさを知る1年であった。

各拠点において感染症対策の徹底に関する件はご利用者様、ご家族様、スタッフに制限を強いることとなったが提供サービスに対する変化を最小限にすることで、不安・ストレスの影響を抑え継続的ご利用・定着に繋がった。またスタッフの入れ替わりも少なく、育成や支援プログラム構築も今後への可能性を含めた取り組みが行えた。

菓子製造の展開は法人全体の協力もあり、作業収益の主となりつつある。人件費を含めた経費節減と適正な運営においては支出先行となり、財政基盤たるご利用者様の確保とともに結果に繋げる事が出来なかった。

事業評価

1. 障害事業部門の連携の確立：各拠点において全体的な連携構築には至らなかったが、人員の補充、ご利用者様のサービス変更による移行、受託作業の提供など課題ごとに連携を図ることができ部門全体での取り組みが見られた。また、拠点におけるご利用者様の減少など収益減も部門における収益増へと視点も変わりつつある。

2. 人材の育成と確保：学生の実習後パート契約など若いスタッフの確保を目指している。ご利用者へ継続的な支援を考えると、永く関わりを持てる支援ができる人材の育成を軸として取り組んでいる。現スタッフは受動的な行動が多く、本人自身の明確な目標設定がないまま支援を行っている点を資格取得等の課題設定をした。

3. サービス事業の拡大と利用者様獲得：通所サービスにおける拠点は年間を通して空きを埋めることが出来なかった。外部発信を重点的に行ったが結果に繋がっていない。2022年度より事業継承による1拠点増となる。継続して異なるサービスの展開を行うことでご利用者様の包括的な支援が行える体制を目指していく。

4. 地域ネットワークの構築と啓発活動：菓子製造による地場産業との関りは大きく、今後の展開に更に繋げていく。

研修	[内部]リーダー研修・障害者虐待防止法研修 [外部]サービス管理責任者研修(1)・相談支援従事者研修(1)
見学・実習 ボランティア	[実習]神戸市立青陽灘高等支援学校・神戸市立友生支援学校・芦屋特別支援学校 [見学]就労支援継続支援B型 元気アップみのり作業所
行事	就労・作業部会（月1回）・お楽しみ会（月1回）、慰労会、余島キャンプ参加、 light it up blue世界自閉症啓発デー、篠山農作業、安國菜園農作業、避難訓練、 HUG+展、たき火カフェ、シブレ里山農作業、CS神戸販売会、しあわせの村販売会、 地域ふれあい会（漫才公演）、なだびときっさ、その他イベント（販売会）参加
取得資格	サービス管理責任者(1)・相談支援従事者(1)

事業報告　　2021年度

施設	オリンピア岩屋	部門	就労継続支援B型	報告者	福田　新
事業目標	1. 就労移行支援 2. 職員の質の向上 3. 障害事業部門間の連携				

事業評価

1. 就労移行支援：菓子製造事業が安定した注文があり、作業が増えている。新しく地域企業の協力のもと製造委託商品ができるようになる。障害を持つご利用者であっても、社会の中で認めてもらえるモノを作ることが出来る事が認知されている。健康面ではオリンピアとして感染症対策を徹底して行えている事がご利用様、ご家族を含め安心して頂ける環境のご理解につながった。次のステップの工賃アップはまだ達成できていない。

2. 職員の質の向上：週に1回の会議を行い、支援の統一と情報の共有している。話し合いを重ねていく事で問題行動を減らす事、できる事を増やす事の支援を行えた。また個別支援計画に沿ったメニューを作成し、それを各職員でできるように取り組んだ。また、職員の支援力を上げる為に研修を行った。来年度から担当制導入になる。

3. 障害事業部門間の連携：住吉東と事業内の問題を部門内に上げて解決するために定期的なミーティングと毎日の電話連絡、Lineでの確認を行った。また住吉東には各ご利用者の状態を確認して施設間でのご利用者のサービス移行を行った。住吉には受託作業を分配し、作業での連携を図った。長峰とは岩屋利用のご利用者の支援、作業での連携を図っている。各施設との連携はあったが、4施設での共通の連携は行えなかった。

社会福祉法人光朔会

事業報告　　2021年度

施設	オリンピア住吉	部門	就労継続支援B型	報告者	久保 弘子
事業目標	1. 個人支援計画の向上 2. 利用者延べ数の確保 3. 地域での障害者支援の啓発 4. 法人内連携による作業強化				

事業評価

1. 個人支援計画の向上：コロナ禍で在宅支援のご利用者様もいる中、ゆとりあるサービスの提供ができ、本人の意思を再確認する機会も得ることが出来た。ご利用者様自身が積極的に意欲の持てる環境を展開できるように新規作業の契約をして、多種に亘る受託作業への取り組みが個別支援の計画に幅を広げた。

2. 利用者延べ数の確保：通所ご利用者様の減少に繋がっている環境の改善として在宅支援の取り組みにより、利用者数の減少を抑えた。更に新規の契約に結び付ける為、支援学校や相談支援との連携を深めることにより、来年度の新規契約を獲得し、行事の充実や的確な支援により継続的に通所利用して頂けた。

3. 地域での障害者支援の啓発： 東灘区における関連事業所を含めたネットワーク事業に参加することは出来たが、周知活動や啓発活動を行う差際にはコロナ禍における制限を受けることが多くあった。

4. 法人内連携による作業強化：感染症対策による環境から止まっている高齢者施設への清掃作業や部門内での合同農作業の復活はできなかったが、新規受託作業の情報共有など連携を図ることは今後に繋げていく結果を出していく。同時にスタッフ間の連携の強化にも繋がることで支援体制の向上をも図っていく。

社会福祉法人光朔会

事業報告　　2021年度

施設	オリンピア長峰	部門	包括型グループホーム	報告者	細田 尚誉
事業目標	1. 包括的な支援の向上 2. 居室の増室 3. 部門間による支援の連携				

事業評価

1. 包括的な支援の向上：土曜日・日曜日を含め日中の施設滞在ご利用者様に対し支援ができるようスタッフを配置し、ご利用者様の自立を目的とした個別の支援向上を目指した。 主に居室の掃除、リネン類を清潔に保つなどの整理整頓についての支援、入浴介助を増やし身体的清潔維持の支援、金銭管理や日常の相談支援にも力を入れた。又、地域への貢献も含め近隣の清掃活動を日常生活の取り組みとして始めた。

2. 居室の増室：スタッフ利用の部屋をご利用者様の居室として増室。体験利用の受け入れを行い入居に繋がった。又、高齢のため今後の利用について継続が厳しいご利用者様に対しては、高齢者施設等への移転手続き及び後見人制度利用における手続き等を行い、退去時までの支援を行えるように取り組んでいる。

3. 部門間による支援の連携：部門での連携強化と経験を目的に他拠点の日中支援に参加し、ご利用者様への支援の統一や共有などの重要性、障害特性や突発的な行動への対応など支援内容における共通認識を持った。共に支援を行ったことでグループホームと日中活動事業所との報告が、ご利用者様の変化に対して早期対応に繋がり継続的通所や安定した生活リズムの維持にも成果が見えた。

社会福祉法人光朔会

事業報告　　2021年度

施設	オリンピア住吉東	部門	障害者生活介護	報告者	鷹野 雅子
事業目標	1. 利用者様支援の向上 2. 送迎を含めた新規利用者様獲得 3. 法人内での支援体制の強化 4. 財政面の安定した運営				

事業評価

1. 利用者様支援の向上：ご利用者各々が快適に過ごせるように室内環境を整えたことで、支援を円滑に行えるようになった。支援の統一や意識を共有し、個々への支援が明確に関われるようになっている。部門内でのサービス移行によるご利用者様が増えたことで、より支援員の専門性や倫理観を必要とした対応力が求められている。

2. 送迎を含めた新規利用者様獲得：送迎通所に対する支援体制の構築が未達のため開始に至ってない。支援内容に公共交通機関の利用訓練などを組み込み、日常生活に繋がる支援を行い部門内のサービス変更のご利用者様を1名受け入れた。また、2022年度から3名の受け入れを行う予定である。

3. 法人内での支援体制の強化：より良い支援が出来るように関係機関や部門内で連携を図ることに取り組んだ。ご利用者様やご家族様に対して一貫したサービスが提供できるように、定期的な情報開示や面談を継続的に行ってご家族を含めた提供サービスの有無を再確認することが出来た。

4. 財政面の安定した運営：部門内からのご利用者様移行によりご利用者様増加に繋がってはいるが、スタッフ確保など支出先行の運営は、増加した人件費以上のご利用者様獲得に至らず計画未達となった。

社会福祉法人光朔会

事業報告　　2021年度

施設	サービス付き高齢者向け住宅オリンピア鶴甲	報告者	施設長 前埜 久男
事業目標	1. オリンピアの理念を活かしたサービス提供 2. 財政基盤の確立 3. 各種講演会やイベント開催 4. 安全で安心して生活出来る住宅環境を目指す		

総括

サービス付き高齢者向け住宅部門では、長期間に渡って満室の状態を維持することが出来た。年間で退居が2室のみと、これまでで最も少なくすることが出来た。空き室が出来た時も、迅速に次の方に入居して頂き、安定した体制の下で運営出来た。

新しい入居者にデイサービス、ヘルパーのサービスをスムーズに使って頂く流れも確立し、収益を増加させることが出来た。また、通院介助や買い物代行といった住宅の自費サービスを積極的に受けて対応していることで、収入も増加させることが出来た。

事業評価

1. オリンピアの理念を活かしたサービス提供：お一人おひとりの事情に合わせて、しっかり寄り添えるケアの実践に取り組んだ。「快適な暮らしが出来ている」との評価を多く頂けている。

2. 財政基盤の確立：満室を長く維持出来たこと、そして自費サービスを多く受けていったことで、安定した運営状況を作り出せた。入居されている多くの方に提供するデイサービス、ヘルパーの利用量も増加し、収入を確保する基盤が出来た。

3. 各種講演会やイベント開催：新型コロナウイルスの影響によって外出自粛の中、外出を控えて住宅の中で楽しんで頂ける様に、クッキングレクや外の食事を注文をお聴きして買ってくる等、工夫を凝らしたイベントの実施に努めた。

4. 安全で安心して生活出来る住宅環境を目指す：入居者の方が不自由されず、快適な生活が出来る様に、日々環境整備に取り組んだ。

研修	施設内虐待防止研修、身体拘束防止研修等
見学・実習 ボランティア	社会福祉士実習生受け入れ
行事	食事イベント 毎週土日カフェオープン
取得資格	

社会福祉法人光朔会

事業報告　　2021年度

施設	オリンピア鶴甲	部門	住宅部門	報告者	前埜　久男
事業目標	1. オリンピアの理念を活かしたサービス提供 2. 財政基盤の確立 3. 安全で安心して生活出来る住宅環境を目指す				

事業評価

1. オリンピアの理念を活かしたサービス提供：入居者の方がこれまで自宅で送って来られた生活と変わらない生活様式をオリンピア鶴甲で継続出来る様に、お一人おひとりに寄り添ったサービス提供を心掛けてケアにあたった。途中退居のケースが減り、「最後まで鶴甲で生活したい」というお声を多く頂けた。

2. 財政基盤の確立：年間を通して長い期間、満室を続けることが出来た。空き室が出来た時も、迅速に次の入居者に入って頂けたので、安定して収入を得ることが出来た。また、通院付き添い、買い物代行等の自費サービスも定着して、皆様の生活が潤う様にお手伝いが出来た。

3. 安全で安心して生活出来る住宅環境を目指す：快適な生活環境を整えることに力を注ぎ、お一人おひとりの要望に応えて各種手続きをお手伝いしたり、しっかりとお話を傾聴してきた。また、日常の清掃業務に加えて、定期的な清掃、危険箇所が無い様に安全に配慮して建物の維持管理を行った。

社会福祉法人光朔会

事業報告　　2021年度

施設	オリンピア鶴甲	部門	ホームヘルプ	報告者	渡部　倫成
事業目標	1. オリンピアとしてのケア追及 2. 人材確保・育成 3. 財政基盤の確立 4. 広報活動の強化				

事業評価

1. オリンピアとしてのケア追及：オリンピのア理念を意識しつつ、ご利用者様目線で考えるケアを実践しました。スタッフ間での意識の差が大きかったこともあり、今後は差がなくなることを意識した取り組みを行いたい。

2. 人材確保・育成：ヘルパーの確保は出来ているものの、それぞれの個性を活かしきれず、ケアの質の差が生まれてしまった。質を高めつつ、それぞれの個性を活かせるよう、研修だけでなくヘルパー間の関わりの中で成長出来る雰囲気を作りたい。

3. 財政基盤の確立：コール対応等、柔軟に対応可能な体制を作ることが出来た。自費対応も増えてきているが、介護保険でのケアが増えておらず、今後に向けてもサービスの質の向上とともに介護保険のサービスを増やしつつ自費サービスの需要に対応出来る体制を作っていきたい。

4. 広報活動の強化：研修会等への参加等、地域とのつながりの場でオリンピアを広めていくことが出来ておらず新たなファンを獲得出来ていない状況のため、今後に向けてつながりの場でのアピールを継続して行っていきオリンピアの知名度を向上させていきたい。

社会福祉法人光朔会

事業報告　　2021年度

施設	オリンピア鶴甲	部門	デイサービス	報告者	下地正樹
事業目標	1. 財政基盤の確立 2. サービスの質の向上 3. 人材の確保・育成				

事業評価

1. 財政基盤の確立：サービス付き高齢者向け住宅の入居者がデイサービスを利用するという流れができ、登録利用者数も徐々に増えてきた。しかし、外部利用者の数を伸ばしきれなかったこともあり、安定した財政基盤を構築していくためには外部利用者をを増やしていく必要がある。

2. サービスの質の向上：スタッフの入れ替わりもあったが、それぞれがオリンピアの理念を理解し、サービスの向上に努めることができた。しかし、ご利用者様のニーズに応える多能工を育成出来なかったので次年度は、多能工をつくって考動するスタッフを育てていく必要がある。

3. 人材の確保・育成：定期的な勉強会を行い、スタッフの技術や知識の向上につながる機会を作ることができた。しかし、スタッフがすすんで考動していける体制づくりには、あと一歩足りない部分があった。今後はチーム全体が今以上に成長していけるよう、研修や勉強できる機会を増やし、質の高いサービスを提供できる組織をつくっていく必要がある。

社会福祉法人光朔会

事業報告　　2021年度

施設	グループホームオリンピア篠原	報告者	上野 鋭一郎
事業目標	1.「認知症ケア」の確立 2.地域密着の浸透 3.人材の育成 4.財政基盤の確立		

総括

オリンピア篠原は7年目を迎えた。指定更新を受け、6年間を振り返り更なる飛躍の年となった。昨年度からのコロナウイルス感染拡大防止の観点から、感染対策を徹底した中で、ホーム内で生活を楽しんでいただけるよう苦慮した。地域との交流は、行事の中止等で地域に出かけることがなかった。また、地域の方々をお迎えする機会も自粛しなければならず残念であった。一方で「コロナとの共生」をも考えていかなければならず、オリンピア篠原を知っていただく機会はリモート等を使って行い、ご家族様とも随時SNSを使って入居者の皆様の日々のご様子を随時発信した。オリンピア篠原は次年度以降も地域に根ざしたホームとして、灘区の認知症ケアの拠点となっていけるよう、環境を整えていく。

事業評価

1.「認知症ケア」の確立：「オリンピアの理念・3つの約束」に基づいたケアの認識、実践に努めた。オリンピアの認知症ケアをスタッフ一人ひとりが意識し、入居者お一人おひとりの「不安な気持ち」に寄り添い、「その人らしい」暮らしのお手伝い、「夢の実現」に向けてのお手伝いができた。

2. 地域密着の浸透：コロナ禍において、地域の行事はすべて中止となり、地域に出かけることはなかったが、地域の方々にリモートを通じて情報発信し、交流の継続に努めた。

3. 人材の育成：法人理念に基づいたケアを心がけた。オリンピアの職員はもとより、派遣職員にも徹底を図った。「オリンピアの理念・3つの約束」を理解し、理念に沿ったオリンピアのケアを意識することが出来た。

4. 財政基盤の確立：昨年度に引き続き、コロナ禍において感染症対策を徹底することは出来た。しかし、退居者や入院者が例年以上に多い年となり、予算収益を下回る結果となった。次年度以降入居希望待機者の確保等見直し、収益の安定を図る為、検討していく必要がある。

研修	[内部]新入職員（研修・OJT）・リーダー研修・認知症ケア・高齢者虐待防止・身体拘束廃止・感染症対策・ [外部]・認知症介護実践者研修・発達障害理解のための基礎と実践講座（リモート）
見学・実習 ボランティア	[見学]入居希望見学（リモート） [実習] [ボランティア]都児童館児童・オリンピア都こども園
行事	誕生日会・消防設備点検、避難訓練・イースター・世界自閉症啓発デー 母の日・父の日・夏祭り・敬老のお祝い・クリスマス・新年会・節分・雛祭り
取得資格	実務者研修(1)

社会福祉法人光朔会